

練習用・公開用として活用できる動画撮影

【緑 町】



お市後家女



高い山



大井川



薩摩薩摩



きじのめんどり

練習用・公開用として活用できる動画撮影

【南 町】



高い山



お市後家女



宵や町



大井川

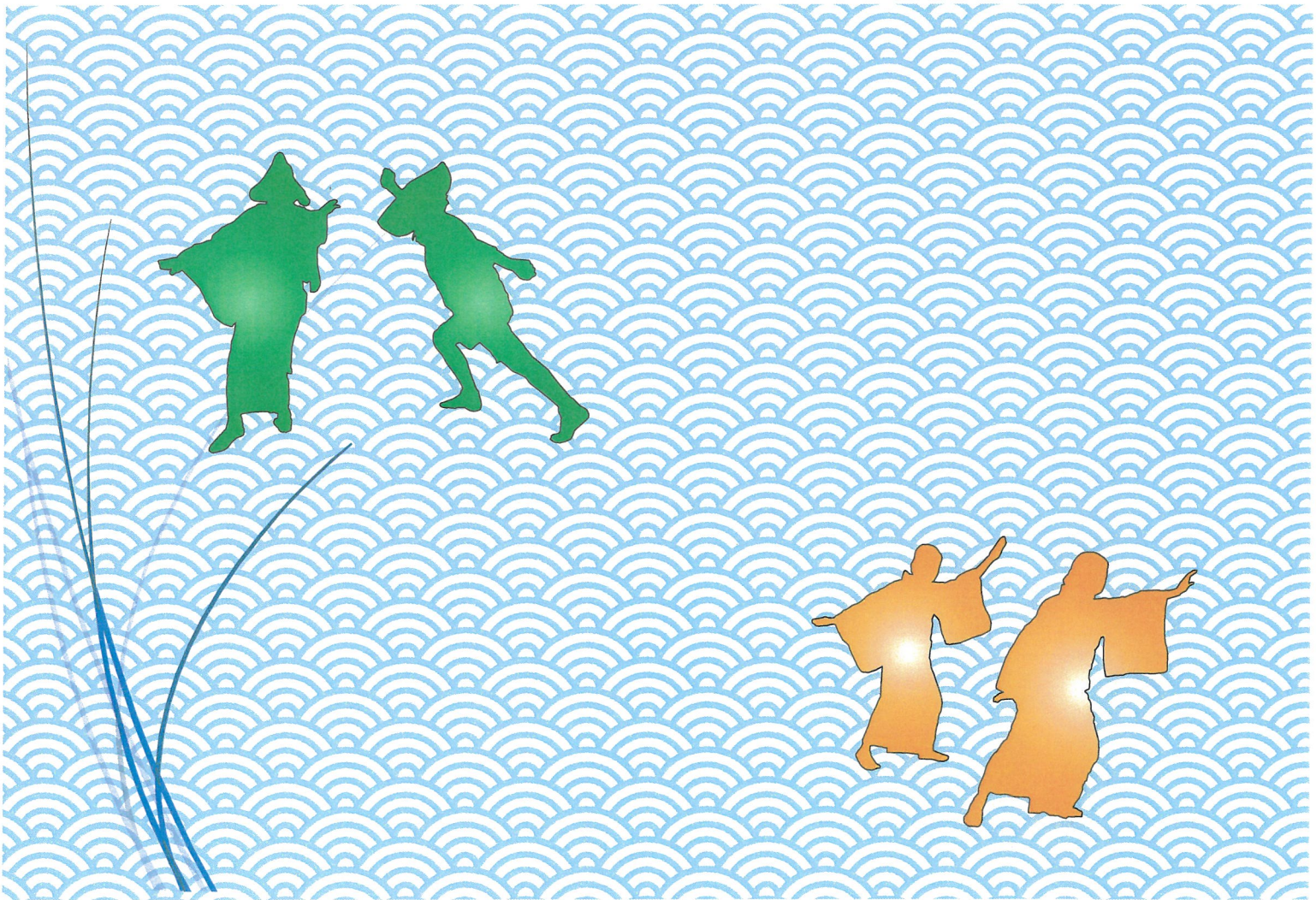


きじのめんどり

福津市選択文化財

ふくまうらぼんおどり

福問浦盆踊り



令和8年3月31日

緑町盆踊り保存会・南町盆踊り保存会

福津市文化財保護審議会の答申書

令和 8 年 3 月 28 日

福津市教育委員会 殿

福津市文化財保護審議会
会長 糸田 和明

福津市文化財の指定について

※ 福数文 107 号で諮問のありました下記の無形民俗文化財の指定について、福津市文化財保護審議会規則第 2 条の規定により答申します。

記

第 14 号 福岡浦盆踊り

1. 指定文化財の表示及び保持団体

区 分	市指定無形民俗文化財以外の無形の民俗文化財の記録の作成等	
名称及び異称	福岡浦盆踊り	
所在地	福津市西福岡二丁目、西福岡三丁目、西福岡四丁目（祿町、南町）	
保持団体の氏名(保持団体にあつては代表者)	団体名：祿町盆踊り保存会 代表者：会長 中野 謙一	団体名：南町盆踊り保存会 代表者：会長 岡波 越明

2. 概要

福岡浦盆踊りの由来については、「豊後を願う後新願で、例年、芦屋から役者一座を招いての芝居興行が行われていたが、ある年、長雨にたたられて興行ができず、一座を細小屋に泊めて区が賄ったことがあった。その時一座はそのお礼という意味で、地元の人々に歌や踊りの手ほどきをし、三味線まで届けた」^{※1}とされる。南町では「明治十二年ごろ、京都の藝妓が福川屋という酒屋で教えていったのが始まり」^{※2}という伝承がある。また明治 28 年（1895）生まれの男性が青年時代から踊っていたとの話がある^{※3}。

祿町^{※4}・南町（旧糸三町の北町・中町・南町）で行われる福岡浦盆踊りは、終戦後の中断があったものの、昭和 36 年（1960）頃に復活し現在に至っている。祿町では昭和 39 年（1964）まで、南町では昭和 50 年（1975）頃までは初盆の家を回る行事であったが、現在はそれぞれの公民館で盆踊りを実施している。両町の盆踊りは、亡くなられた方の供養を目的として、初盆を迎えた人の遺影と位牌を集めた祭壇を前に、8 月 15 日に頃いと太鼓と三味線で踊られている。

記録資料としては多数の原本が現存しており、最も古い『盆歌 大正拾五年』に始まり、昭和初期の『昭和三年 ほん踊ふた、第三号』、『福岡郷土盆踊り』、『福岡浦盆踊り歌詞 高木孝喜』のほか、昭和 50 年代（1975 年代）以降に整理された複数の原本がある。^{※5}よって福岡浦盆踊りは大正 15 年（1926）以前に遡るのは論議である。これらの記録資料により合計 19 曲が確認できるが、現

在にまで曲と踊りが伝わるものは6曲^{※1}である。中でも「まじのめんどり」^{※2}は猿持の踊りと飛入りの仮装踊りを伴う特歌がある。^{※3}

福岡浦盆踊りの曲目に着目すると、「まじのめんどり」の一節で「まじのめんどり。こまつのでしたで。つまを、なみねて。ほろろうつ」は、全国の民謡を集めた明和9年(1772)『山家鳥虫歌』に大和の民謡として「槍子の雄鳥等のもとで 夫を尋ねてほろろうつ」の源歌がある。「お市後家女」は『弦曲辨弄当第二篇』に「お市後家」とある。このように福岡浦盆踊りの曲の歌詞の中には、近世の歌謡に源歌がみえるものがある。^{※4}

なお、両町の盆踊りは現在では太鼓や踊りなどのテンポ、歌詞の構成には両町で差異があり、また「幽霊幽霊」は徳町のみ、「青や町」は南町のみで踊られるなどプログラムにも差が認められる。

3. 選択理由

福岡浦盆踊りは原本によると大正15年(1926)以前に遡る歴史があり、「大井川」、「高い山」、「まじのめんどり」などの曲目が三味線、太鼓、唄いを伴い継承されている。「高い山」は神楽以南の玄界灘沿岸部の盆踊りに共通する曲目であり、一部の共通する歌詞も残されている。^{※5}

両町では曲目を共有しながらも、太鼓や踊りのテンポが異なるなど、それぞれで変化しながら継承された状況を知ることができる。

福岡浦両町の「まじのめんどり」は仮装を伴う猿持の踊りで、他の曲目と違い両町で踊りが完全に共通することもあり、福岡浦盆踊りの代名詞となり福岡浦としての両町の存在感を生み出している。

資料としては多くの原本が残されており、福岡浦周辺地域に由来する歌詞の創作・追加が認められる。歌詞の創作・追加は大正15年(1926)の「竹丸」に既にあり、昭和50年代(1976年代)まで認められる。^{※6}

福岡浦盆踊りは、変化しながらも現在まで曲目が継承される地域的特色のある民俗芸能である。このことから市指定無形民俗文化財以外の無形の民俗文化財の記録の作成等を適用し、市選択文化財として記録の作成を行うべきである。^{※7}

※1 『福岡県史通史編』2000 福岡県史編纂委員会 P1005、「古老の記憶としての真鍮あり

※2 昭和54年(1979)の「まつりむかふた宗像郡郷土芸能祭」のチラシに古老の話としての掲載あり

※3 『昔語り福岡あひのこ』福岡県教育委員会 1992 P259、平成5年(1991)の聞き取り調査

※4 福岡は昭和15年(1940)に北町と南町が合併して成立(町史報告書より)

※5 『芸能 大正十五年』・『福岡誌郷土芸能編』福岡県系、『昭和五年 ほんねんぶん 第三号』・『福岡南表路 巻詞 前編 巻詞』は福岡(田北町・田中町)系と思われる原本

※6 「大井川」、「青や町」、「お市後家女」、「高い山」、「まじのめんどり(猿のめんどり)」、「幽霊幽霊」の6曲。なお両町の動画資料(平成12~14年(2000~2002))中には、現在は踊られない「川を」、「竹丸」の2曲が確認できる。他に「竹丸」、「浜の名物」、「十二月」、「御祭日」、「浜のまじのめんどり」、「男に恋あり」、「坊上曲道」、「お徳結ひ」、「なぞ」、「私が在成」、「縁は雀」の11曲。

- ※7 「きじのめんどり」の現在表記は福岡が「きじのめんどり」、前川が「きじのめんどり」
- ※8 捲入りの振装廻りは、古くは女装した青年によるものであった。現在の前川は仮扮コンパストとして大人の部、子どもの部に分けて女装に似らない仮装が行われる。福岡は捲り入りで振装廻りが加わることもある。
- ※9 『筑前神楽第二編』は天明5年(1785)に成立。他に「筑前神楽」は天明8年(1822)成立『浮れ草』の「筑前神楽」に類似の一節をみることができる。
- ※10 舞臺振りの「高い山」の歌詞「あの畑まいたよが夕顔でナー 黄粉つけたら高よあふナー」は福岡舞臺振りの「高い山」の歌詞に表題する。
- ※11 大正15年(1926)の「竹」に「田原村の福岡藩の御舞臺」の歌詞がある。
- ※12 下記の二(三)に該当する。

福津市誌編纂委員の推薦を請うべき無形の民俗文化財の追記基準

二 民間芸能のうち次の各号のいずれかに該当し、重要なもの

- (一) 芸能の発生又は成立を示すもの
- (二) 芸能の変遷を示すもの
- (三) 地域的特色を示すもの

■写真 福間浦盆踊り(緑町)



福間町史収集資料
郷土写真
9上田資料 74-171盆踊り(緑町)
撮影年月日不詳



福間町史収集資料
郷土写真
9上田資料 75-172毎月二回練習する盆踊り保存会(緑町)
S. 47. 7. 撮影

■写真 福間浦盆踊り(南町)



福間町史収集資料
郷土写真
4上田資料 4-11盆踊り
S. 45. 8. 15撮影
南町・盆踊り
※位牌と祭壇



福間町史収集資料
郷土写真
4上田資料 4-15盆踊り
S. 45. 8. 15撮影
南町・盆踊り
※やぐらと太鼓



福間町史収集資料
郷土写真
4上田資料 4-15盆踊り
S. 45. 8. 15撮影
郷土芸能 昔から伝わる南
町盆踊り「きじのめんどり」

目次

発刊によせて
選択文化財答申書
盆踊り写真

1. 福間浦盆踊りと福間浦	1
2. 福間浦盆踊りの概要	2
3. 福津市選択文化財としての評価	
4. 福間浦盆踊りの変遷	
5. 出演記録	
6. 曲目比較資料	
7. 盆踊りの道具と楽譜等資料	
8. 保存会の組織と役割分担	
9. 収集資料目録	
10. おわりに	

1 福間浦盆踊りと福間浦

浦は海辺にある村の明治維新以前の呼び名で、多くが漁村や海運基地であり、場所によっては商業都市でもありました。福間浦は現在の福津市西福間2～4丁目辺り、緑町区と南町区に該当しますが、図1に見るように西郷川河口右岸の海岸部に沿った位置にあります。この場所に集落が形成されたのは、福岡藩によって海岸部に松の植林が行われた寛永年間（1624～1643）とされています。福間浦では、江戸時代中頃には福岡藩へ船で年貢米を運ぶ津出しを中心に海運業が発展し、江戸時代の後半から明治時代の初め頃にかけては、商工業を主として戸数が増加し賑わっていました。

福間浦盆踊りが正確にいつ始まったかは分かっていませんが、このような発展を遂げた福間浦の人々により始められ、福間浦の名を冠した独特の盆踊りとして現在まで継承されてきました。

《参考文献》福岡町『福岡町史通史編』2000(P451 図16)、津屋崎町『津屋崎町史通史編』1999(P533)、福岡町『やさしい福岡町の歴史』2003(P95～102)

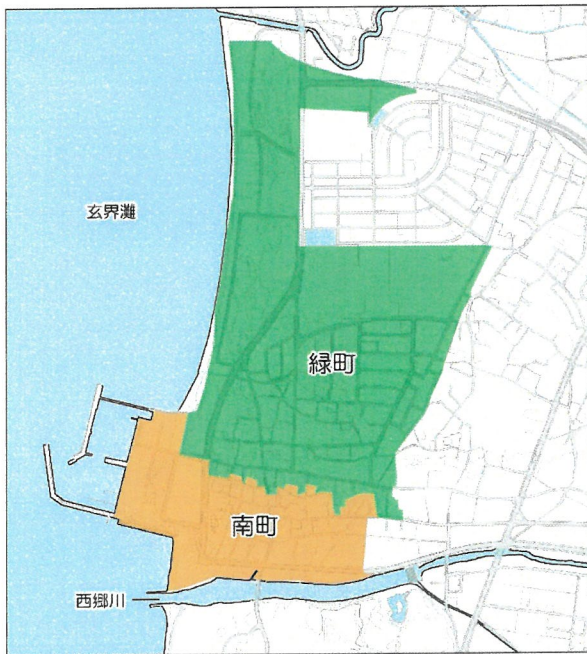


図1 緑町・南町(福間浦)位置図

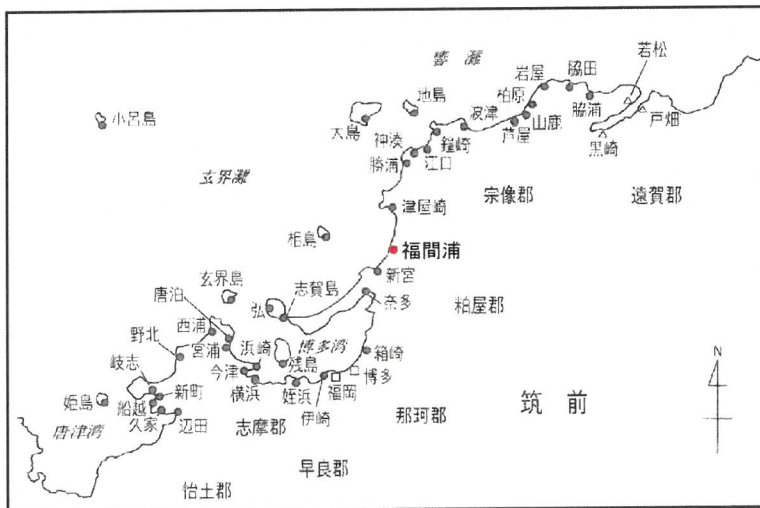


図2 福岡藩の浦

- 浦奉行管轄
- 町奉行管轄
- △ 郡奉行管轄

※『福岡町史通史編』から転載、一部加筆

2 福間浦盆踊りの概要

福間浦盆踊りの由来については、「豊漁を願う漁祈願で、例年、芦屋から役者一座を招いての芝居興行が行われていたが、ある年、長雨にたたられて興行ができず、一座を網小屋に泊めて区が賄ったことがあった。その時一座はそのお礼という意味で、地元の人々に歌や踊りの手ほどきをし、三味線まで伝授した」^{※1}とされています。南町では「明治十二年ごろ、京都の芸妓が稲川屋という酒屋で教えていったのが始まり」^{※2}という伝承もあります。また明治28年（1895）生まれの男性が青年時代から踊っていたという話があります^{※3}。

緑町^{※4}・南町（旧浜三町の北町・中町・南町）で行われる福間浦盆踊りは、終戦後の中断がありましたが、昭和35年（1960）頃に復活し現在に至っています。緑町では昭和39年（1964）まで、南町では昭和50年（1975）頃までは初盆の家を回る行事でしたが、現在はそれぞれの公民館で盆踊りを実施しています。両町の盆踊りは、亡くなられた方の供養を目的として、初盆を迎えた人の遺影と位牌を集めた祭壇を前に、8月15日に唄いと太鼓と三味線で踊られています。

記録資料としては多数の唄本が現存していて、最も古い『盆歌 大正拾五年』に始まり、昭和初期の『昭和五年 ぼん踊うた 第三号』、『福間郷土盆踊唄』、『福間浦盆踊歌詞 高木常喜』のほか、昭和50年代（1975年代）以降に整理された複数の唄本があります。^{※5}よって福間浦盆踊りは大正15年（1926）以前に遡るのは確実です。これらの記録資料により合計19曲が確認できますが、現在にまで曲と踊りが伝わるものは6曲^{※6}です。中でも「きじのめんどり」^{※7}は独特の踊りと飛入りの仮装踊りを伴う特徴があります。^{※8}

福間浦盆踊りの曲目に着目すると、「きじのめんどり」の一節で「きじのめんどり、こまつのしたで、つまを、たづねて、ほろろうつ」は、全国の民謡を集めた明和9年（1772）『山家鳥虫歌』に大和の民謡として「雉子の雌鳥薄のもとで 夫を尋ねてほろゝ打つ」の類歌があります。「お市後家女」は天明3年（1783）成立の『弦曲粹弁当第二篇』に「お市後家」とあります。このように福間浦盆踊りの曲の歌詞の中には、近世の歌謡に類歌がみえるものがあります。^{※9}

なお、両町の盆踊りは現在では太鼓や踊りなどのテンポ、歌詞の構成には両町で差異があり、また「薩摩薩摩」は緑町のみ、「宵や町」は南町のみで踊られるなどプログラムにも差が認められます。

※1 『福間町史通史編』2000 福間町史編集委員会 P1005：一古老の記憶としての掲載あり

※2 昭和54年（1979）の「まつりむなかた宗像郡郷土芸能祭」のチラシに古老の話としての掲載あり

※3 『昔語り福間あのことろ』福間町教育委員会 1992 P250：平成3年（1991）の聞き取り調査

※4 緑町は昭和15年（1940）に北町と中町が合併して成立（町事報告書より）

※5 『盆歌 大正拾五年』・『福間浦郷土盆踊唄』は南町系、『昭和五年 ぼん踊うた 第三号』・『福間浦盆踊歌詞 高木常喜』は緑町（旧北町・旧中町）系と思われる唄本

※6 「大井川」、「宵や町」、「お市後家女」、「高い山」、「きじの女鳥（雉のめんどり）」、「薩摩薩摩」の6曲。

なお南町の動画資料（平成 12～14 年（2000～2002））中には、現在は踊られない「川を」、「竹わ」の 2 曲が確認できる。他に「舟わ」、「飴の名物」、「十二月」、「御繁昌」、「酒のさの字」、「雪に宿かり」、「坊主山道」、「吉屋結び」、「なぞ」、「私が在所」、「笹に雀」の 11 曲。

- ※7 「きじのめんどり」の現在表記は緑町が「雉のめんどり」、南町が「きじの女鳥」
- ※8 飛入りの仮装踊りは、古くは女装した青年によるものであった。現在の南町は仮装コンテストとして大人の部、子どもの部に分けて女装に限らない仮装が行われる。緑町は飛び入りで仮装踊りが加わることがある。
- ※9 『弦曲粹弁当第二篇』は天明 3 年（1783）に成立。他に「薩摩薩摩」は文政 5 年（1822）成立『浮れ草』の「薩摩節」に類似の一節をみることができる。

3 福津市選択文化財としての評価(福津市文化財保護審議会答申書から)

福間浦盆踊りは唄本によると大正 15 年（1926）以前に遡る歴史があり、「大井川」、「高い山」、「きじのめんどり」などの曲目が三味線、太鼓、唄いを伴い継承されている。「高い山」は神湊以南の玄界灘沿岸部の盆踊りに共通する曲目であり、一部の共通する歌詞も残されている。^{※1}

両町では曲目を共有しながらも、太鼓や踊りのテンポが異なるなど、それぞれで変化しながら継承された状況を知ることができる。

福間浦固有の「きじのめんどり」は仮装を伴う独特の踊りで、他の曲目と違い両町で踊りが完全に共通することもあり、福間浦盆踊りの代名詞となり福間浦としての両町の連帯感を生み出している。

資料としては多くの唄本が残されており、福間浦周辺地域に由来する歌詞の創作・追加が認められる。歌詞の創作・追加は大正 15 年（1926）の「竹わ」に既にあり、昭和 50 年代（1975 年代）まで認められる。^{※2}

福間浦盆踊りは、変化しながらも現在まで曲目が継承される地域的特色のある民俗芸能である。このことから市指定無形民俗文化財以外の無形の民俗文化財の記録の作成等を適用し、市選択文化財として記録の作成を行うべきである。^{※3}

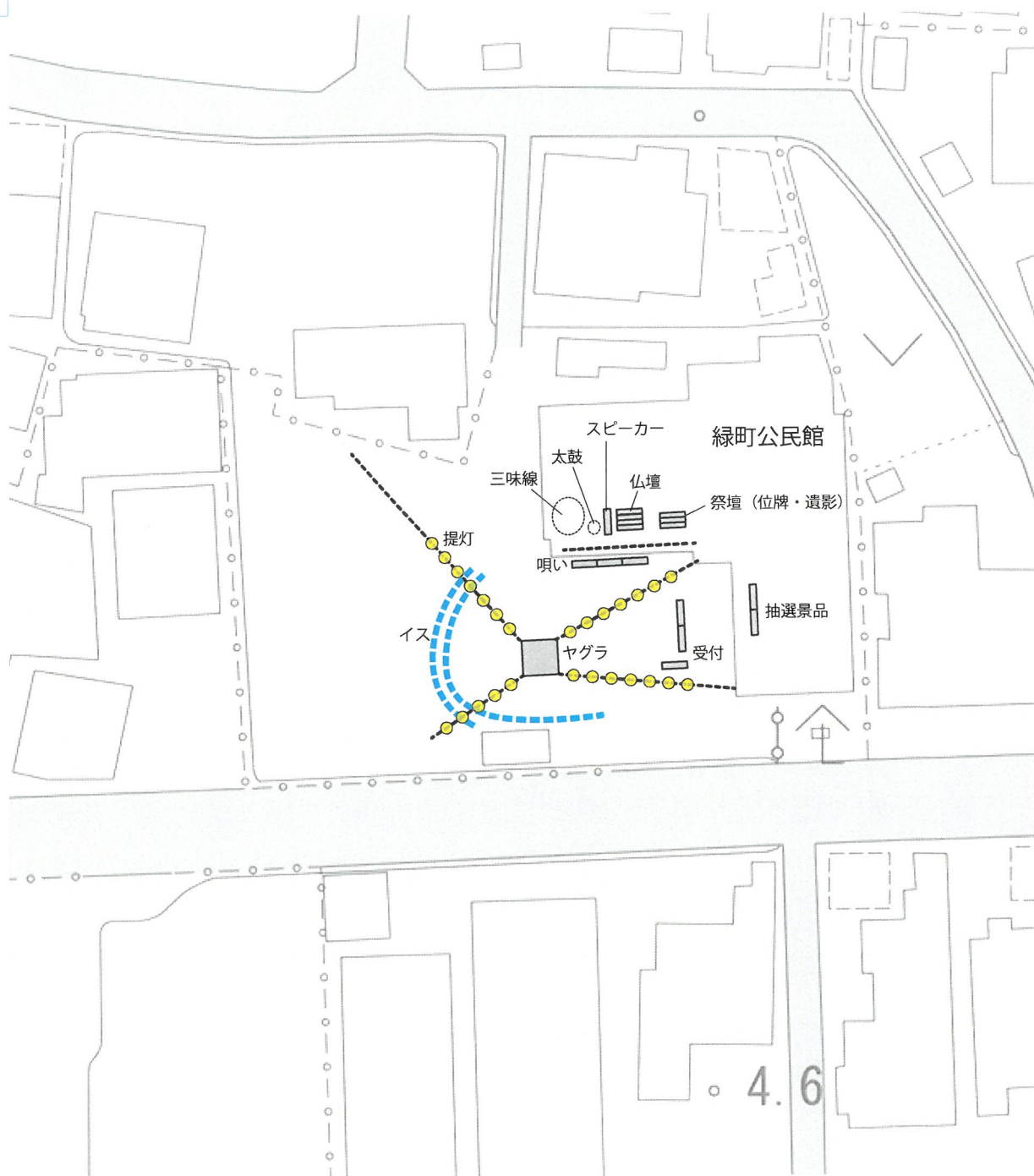
- ※1 神湊盆踊りの「高い山」の歌詞「あの娘よい子よボタ餅顔でナー 黄粉つけたら尚よかるナー」は福間浦盆踊りの「高い山」の歌詞に共通する。
- ※2 大正 15 年（1926）の「竹わ」に「松は緑の福間浦の御神木」の歌詞がある。
- ※3 下記の二（三）に該当する。

福津市記録作成等の措置を講ずべき無形の民俗文化財の選択基準

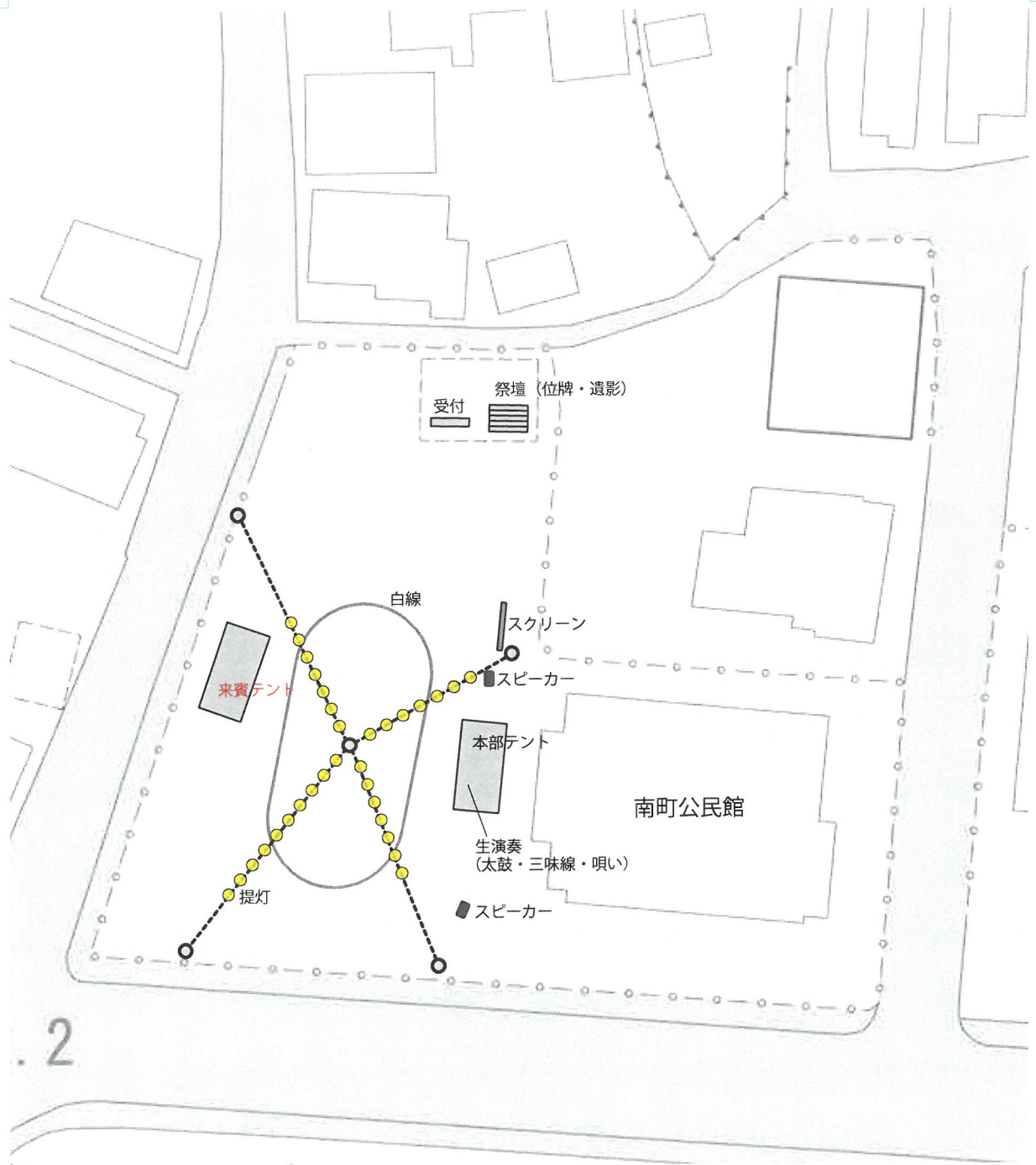
二 民俗芸能のうち次の各号のいずれかに該当し、重要なもの

- (一) 芸能の発生又は成立を示すもの
- (二) 芸能の変遷を示すもの
- (三) 地域的特色を示すもの

4 福間浦盆踊りの変遷



福間浦盆踊り会場配置 (R7 緑町)



福間浦盆踊り会場配置 (R7 南町)

5 出演記録

福間浦盆踊りは地域の祭りや自治体の文化祭、地元団体の要望などを受けて出演する機会が多数ありました。以下は、緑町、南町のこれまでの出演記録の一覧です。

年月日	演題	場所	出演者	備考
令和7年11月4日	市民文化祭	福津市総合文化会館	踊り手・歌い手・三味線・太鼓／雉のめんどり	緑町 南町
令和6年9月29日	福津ふるさと劇場「紅葉屋敷と雉のめんどり」	福津市総合文化会館	踊り手・歌い手・三味線・太鼓／雉のめんどり	緑町 南町
令和2年9月	第4回水光松風荘秋祭り	水光松風荘	踊り手・三味線／雉のめんどり 外	緑町
令和元年9月21日	第3回水光松風荘秋祭り	水光松風荘	踊り手・三味線／雉のめんどり 外	緑町
平成30年10月21日	集いの場「みどり」秋祭り	水光松風荘	踊り手・歌い手・三味線・太鼓／雉のめんどり 外	緑町
平成29年8月26日	盆カラカッカ祭り 光の道☆デスコロード	福間海岸	踊り手・歌い手・三味線・太鼓／雉のめんどり 外	緑町
平成25年7月29日	昭和学園 雉のめんどり 指導	緑町公民館	踊り手・歌い手・三味線・太鼓／雉のめんどり	緑町
平成23年7月30日	福津ふるさと劇場「よいよい船」	福津市総合文化会館	踊り手／雉のめんどり	緑町
平成22年8月18日	ナーシングケア	ナーシングケア	雉のめんどり発表（テープによる）	緑町
平成20年7月6日	郷育カレッジ	中央公民館	踊り手・歌い手・三味線・太鼓／雉のめんどり	緑町
平成6年3月5日	福間町公民館開館5周年記念 第6回公民館まつり	福間町公民館	踊り手・歌い手・三味線・太鼓／大井川・薩摩薩摩・雉のめんどり	緑町
昭和54年8月18日	まつりむなかた'79 宗像郡郷土芸能祭	福間町神郷小学校校庭	－／きじのめんどり	南町

6 曲目比較資料

福間浦盆踊りを福津市選択文化財とするまでの調査の過程では、緑町、南町の住民の方々の協力により多数の唄本資料を集成することができました。そして、これらの唄本に収録されている曲目を比較した結果、緑町系と南町系の二種類の唄本があることが分かりました。また、両町で共通して実施される地唄 4 曲の歌詞の比較調査や歌詞の中に織り込まれた地域由来の歌詞の確認も行いました。その成果をここで紹介します。

なお現在の福間浦盆踊りでは、緑町、南町とも 5 曲の地唄が踊られますが、共通して行われるのは、「お市後家女」、「高い山」、「大井川」、「きじのめんどり（緑町：雉のめんどり、南町：きじの女鳥）」の 4 曲です。このうち両町で踊りと演奏がほぼ共通するのは「きじのめんどり」のみで、他は両町で異なっています。歌詞においても多くの違いがあります。このことは、長い福間浦盆踊りの歴史の中で、両町の踊りと演奏、歌詞がそれぞれに変化していったことを示しているのかもしれませんが。また福間栈橋や福間玉せりなどの福間浦由来の歌詞や福岡県内に由来する歌詞が多くみられることも福間浦盆踊りの特徴で、地域の祭りとしての愛着と誇りを感じさせる要素とも言えます。

緑町曲目比較資料

推定年代 旧分類

- ① F-3 ⑨ぼん踊った(昭和5年)
- ⑤ F-2-1 ⑧福岡浦盆踊歌詞 高木常喜(不明) 見出し
- ⑤ F-2-2 ⑧福岡浦盆踊歌詞 高木常喜(不明) 本編
- ② F-5 ⑩福岡浦盆踊唄台本(昭和54年)
- ⑧ GT1-1 福岡浦緑町区盆踊唄(昭和五十五年七月)
- ⑥ F-6 ⑭緑町区 福岡浦盆踊り唄(平成3年)
- ⑦ F-7 ⑮緑町区 福岡浦盆踊り唄(平成4年)

※1: 根拠文献は城野茂門『福岡浦盆踊について』 ※2: 南町提供資料

※3: F=福岡浦(旧収集資料)、GT=緑町追加資料

出典 全曲	作成年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
		大井川	竹わ	舟わ	興いや町	船能名物	拾二月	川を	御繁昌	酒能さの字	おいちごげじよ
① F-3	昭和5年頃	大井川	竹は人幡	舟は出て行く	宵和町		拾貳月			酒のさの字	おいちごげじよ
⑤ F-2-1	昭和前半か	大井川	竹は人幡	舟は出て行く	夜和町		拾貳月			酒のさの字	おいちごげじよ
⑤ F-2-2	昭和前半か	大井川	竹は人幡	舟は出て行く	夜和町		拾貳月			酒のさの字	おいちごげじよ
② F-5	昭和54	大井川	竹わ	舟わ	宵いや町	船の名物	十二月	川を	御繁昌	酒のさの字	お市後家女
⑧ GT1-1	昭和55年以降	大井川									お市後家女
⑥ F-6	平成3年	大井川									おいち後家女
⑦ F-7	平成4年	大井川									お市後家女

出典 全曲	作成年	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
		高山	きぢの女鳥	雪に宿かり	坊僧山道	吉屋結び	〔なぞく〕	私が在所	〔笹に雀〕	さ津満く	〔蝶々〕
① F-3	昭和5年頃	高山	きぢのめんどり	雪に宿かり	坊主山道	吉屋結び	なぞ	妾が在所	笹に雀	さつまく	C
⑤ F-2-1	昭和前半か	高山	きぢの女鳥	雪に宿かり	坊僧山道	吉屋結び	〔なぞく〕	私が在所	〔笹に雀〕	さ津満く	〔蝶々〕
⑤ F-2-2	昭和前半か	高山	きぢの女鳥	雪に宿かり	坊僧山道	吉屋結び		私が在所	笹に雀	さ津満く	B
② F-5	昭和54	高い山	きぢの女鳥	雪に宿かり	(坊主山道)	(吉屋結び)	(なぞ)	(妾が在所)	(笹に雀)	(薩摩く)	E
⑧ GT1-1	昭和55年以降	高い山	雉のめんどり								
⑥ F-6	平成3年	高い山	雉のめんどり							薩摩 薩摩	
⑦ F-7	平成4年	高い山	雉のめんどり							薩摩 薩摩	

※[]付は後付墨書き追記。()付は後付鉛筆書き追記。

南町曲目比較資料

推定年代 旧分類

- ⑧ F-1 ⑦盆歌(大正15年)
- ⑨ ST4-1 福岡浦郷土盆踊唄
- ⑩ ST10-1 福岡浦南町区 盆踊復活教習会 盆踊復活教習会
- ⑪ ST10-2 第拾四号 福岡浦盆踊唄台本 昭和五十年写書
- ⑫ F-4 第壹拾六号 福岡浦盆踊唄台本 昭和五十年写書
- ⑬ ST5-1 第一号 福岡浦盆踊唄台本 昭和五十年写書
- ⑭ ST7-5 第参号 福岡浦盆踊唄台本 昭和五十年写書
- ⑮ ST7-4 第式拾八号 福岡浦盆踊唄台本 昭和五十年写書
- ⑯ ST8-2 第七号 福岡浦盆踊唄台本 昭和五十四年四月
- ⑰ ST8-3 昭和六拾年八月 福岡浦盆踊

- 大正15年以降 上田資料19 A
- 昭和6年以降
- 昭和50年
- 昭和50年頃
- 昭和50年頃
- 昭和51年
- 昭和53・54年
- 昭和53～55年
- 昭和54年頃
- 昭和60年

※1: F=福岡浦(旧収集資料)、ST=南町追加資料

出典 全曲	作成年	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
F-1	大正15年以降	大井川	竹わ	舟わ	興いや町	船能名物	拾二月	川を	御繁昌	酒能さの字	酒能さの字
ST4-1	昭和6年以降	大井川	竹は	舟わ	よいやま	あめの名物	十二月	川を	御繁昌	酒のさ	
ST10-1	昭和50年	大井川	竹わ	舟は	宵いや町	船の名物	拾二月	川を	御繁昌	酒のさの字	お市後家じよう
ST10-2	昭和50年頃	大井川	竹わ	舟わ	宵いや町	船の名物	十二月	川を	御繁昌	酒のさの字	お市後家じよう
F-4	昭和50年頃	大井川	竹わ	舟わ	宵いや町	船の名物	十二月	川を	御繁昌	酒のさの字	お市後家じよう
ST5-1	昭和51年	大井川	竹わ	舟わ	宵いや町	船の名物	十二月	川を	御繁昌	酒のさの字	お市後家じよう
ST7-5	昭和53・54年	大井川	竹わ	舟わ	宵いや町	船の名物	十二月	川を	御繁昌	酒のさの字	お市後家じよう
ST7-4	昭和53～55年	大井川	竹わ	舟わ	宵いや町	船の名物	十二月	川を	御繁昌	酒のさの字	お市後家じよう
ST8-2	昭和54年頃	大井川	竹わ	舟わ	宵いや町	船の名物	十二月	川を	御繁昌	酒のさの字	お市後家女
ST8-3	昭和60年	大井川	竹わ	舟わ	宵いや町	船の名物	十二月	川を	御繁昌	酒のさの字	お市後家じよう

出典 全曲	作成年	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20
F-1	大正15年以降	高山	ぎの女鳥	雪に宿かり	坊徳山道	吉屋結ひ	【なぞく】	私が住所	【密に雀】	さ津溝く	【婦々】
ST4-1	昭和6年以降										
ST10-1	昭和50年	高い山	さじの女鳥								
ST10-2	昭和50年頃	高い山	さじの女鳥								
F-4	昭和50年頃	高い山	さじの女鳥								
ST5-1	昭和51年	高い山	さじの女鳥								
ST7-5	昭和53・54年	高い山	さじの女鳥								
ST7-4	昭和53～55年	高い山	さじの女鳥								
ST8-2	昭和54年頃	高い山	さじの女鳥								
ST8-3	昭和60年	高い山	さじの女鳥								

※[]付は後付墨書き追記。()付は後付鉛筆書き追記。

お市後家女（緑町）

一、お市後家女はなあえ ドッコイ
三年かよたな
かよたそうじやろばい
しるしに子が出来た お市後家女
サア オヤツトカカイト…ホイ

二、様はさんやのなあえ ドッコイ
三日月さまよな
宵にそうじやろばい
ちらりと見たばかり お市後家女
サア オヤツトカカイト…ホイ

三、関の地藏さまなあえ ドッコイ
親よりましよな
七度そうじやろばい
まいれば妻たもる お市後家女
サア オヤツトカカイト…ホイ

四、沖のとなかになーえ ドッコイ
新茶屋をたててな
上りそうじやろばい
下りの船を待つ お市後家女
サア オヤツトカカイト…ホイ

お市後家女（南町）

一、お市後家女はなーえ
アードッコイシヨイ
三年通うた
通うたそうじやろばい
しるしに子が出来た お市後家女
さまやつとかかえた
アードッコイシヨイ

二、志賀の島出でなーえ
アードッコイシヨイ
奈多浜行けば
いとしそうじやろばい
とこの相の島 お市後家女
さまやつとかかえた
アードッコイシヨイ

三、安芸の宮島なーえ
アードッコイシヨイ
廻れば七里
裏はそうじやろばい
七浦七恵比寿 お市後家女
さまやつとかかえた
アードッコイシヨイ

四、博多御女郎はなーえ
アードッコイシヨイ
もちなこと云いやるなー
ふたえそうじやろばい
まぶたにもろえくば お市後家女
さまやつとかかえた
アードッコイシヨイ

高い山（緑町）

- 一、高い山から 谷底見ればな
ドッコイ
瓜やなすびの 花ざかりな
アレハ サ ヨイヨイ
- 二、あの娘よい娘じゃ ぼた餅顔よな
ドッコイ
黄粉つけたな なおよかる
アレハ サ ヨイヨイ
- 三、船の船頭と 娘のよいはな
ドッコイ
人が見たがる 乗りたがるな
アレハ サ ヨイヨイ
- 四、恋し小川の 田の水くめばな
ドッコイ
たこは漏らねで 袖しぼるな
アレハ サ ヨイヨイ
- 五、ここは山中 かたいし所な
ドッコイ
油しめ木の 音がする
アレハ サ ヨイヨイ

高い山（南町）

- 一、高い山から谷底見ればな―
瓜やなすびの花ざかりな―
あれはさ―よいよい
- 二、沖のと中の二本竹はな―
うまず竹やりや子がきかねな―
あれはさ―よいよい
- 三、関の地蔵さんは親よりましょな―
一度参れば子がたもるな―
あれはさ―よいよい
- 四、安芸の宮島まいれば七里な―
浦は七浦七恵比寿ば―
あれはさ―よいよい
- 五、小石小川のうの鳥見ればな―
小ぶなくわえた瀬をのぼるな―
あれはさ―よいよい
- 六、ここの座敷は祝いの座敷な―
鶴と亀とが舞いあそぶな―
あれはさ―よいよい

大井川（緑町）

- 一、大井川にはいかだをながす ソレ
立田川にはな紅葉を流す マカシヨ
そこで二人が浮名を流す オオ
オオソウカイナ ソレ . . . ソレ
- 二、三里浜からおいわず見れば ソレ
ちらりふらりと千鳥が通う マカシヨ
そこで舟のり漁師が通う オオ
オオソウカイナ ソレ . . . ソレ
- 三、ここは名高い新地じゃないか ソレ
老も若いも砂持ちさせて マカシユ
客が終ゆりや芸子が騒ぐ オオ
オオソウカイナ ソレ . . . ソレ
- 四、橋の上から文取り落し ソレ
文は流れる思いは沈む マカシヨ
そこで二人が浮名を流す オオ
オオソウカイナ ソレ . . . ソレ
- 五、離れまいぞと約束すれど ソレ
縁の無いのか神子の月よ マカシヨ
五つながらも浮名を流す オオ
オオソウカイナ ソレ . . . ソレ

大井川（南町）

- 一、大井川にはいかだをながす
龍田川には紅葉を流す
共に二人は浮名を流す
おおそうかいな
- 二、石堂橋から柳町見れば
女郎やかむろがな、やたらとさわぐ
上げたお客が浮名を流す
おうおそうかいな
- 三、橋の上から文取り落とす
文は流れるな―思いは沈む
吾は君故浮名を流す
おうおそうかいな
- 四、ここは名高い新地じゃないか
老も若きもな―妻もち盛り
ちらりちらりと千鳥が通う
おうお―そうかいな
- 五、くぜつすまいと思っていたが
縁が無いのかな―神此の月で
いつになれては別れが早い
おうお―そうかいな

雉のめんどり (緑町)

- 一、雉のめんどり ホイ 小松の下で
妻をたずねて ほろろうつ
アヲドツコイテイシヨ 様はよかるぞえ
さ ホツカラカイト コイコイ
- 二、踊りおどらば ホイ お寺のつぼで
踊るかたてに 後生をねがう
アヲドツコイテイシヨ 様はよかるぞえ
さ ホツカラカイト コイコイ
- 三、恋をめさるなら ホイ 薬師堂でめされ
薬師や木仏で もの言わぬ
アヲドツコイテイシヨ 様はよかるぞえ
さ ホツカラカイト コイコイ
- 四、金の座敷でも ホイ 一人寝はいやよ
様と二人寝の 膝まくら
アヲドツコイテイシヨ 様はよかるぞえ
さ ホツカラカイト コイコイ
- 五、博多小女郎が ホイ もろおた子を見やれ
二重脛に もろえくぼ
アヲドツコイテイシヨ 様はよかるぞえ
さ ホツカラカイト コイコイ
- 六、祝い目出度の ホイ 若松様よ
枝も栄ゆりや 葉もしゆげる
アヲドツコイテイシヨ 様はよかるぞえ
さ ホツカラカイト コイコイ

きじの女鳥 (南町)

- 一、きじの女鳥 オイ 小松の下で
妻を オイ たずねて おろおろと
アリヤドツコイテイシヨ 様がよかるぞいな
さ ホカラカイト コイコイ
- 二、博多御女郎は オイ もちな事云いやる
二重 オイ まぶたに もろえくぼ
アリヤドツコイテイシヨ 様がよかるぞいな
さ ホカラカイト コイコイ
- 三、あの子よい子よ オイ ぼたもち顔よ
きなこ オイ 付けたなら なおよかる
アリヤドツコイテイシヨ 様がよかるぞいな
さ ホカラカイト コイコイ
- 四、関の地藏さん オイ 親よりましよ
一度 オイ 参れば 子がたもる
アリヤドツコイテイシヨ 様がよかるぞいな
さ ホカラカイト コイコイ
- 五、こちの座敷は オイ 祝の座敷
鶴と亀とが オイ 舞いあそぶ
アリヤドツコイテイシヨ 様がよかるぞいな
さ ホカラカイト コイコイ
- 六、祝い目出度の オイ 若松様よ
枝も盛て オイ葉もしげる
アリヤドツコイテイシヨ 様がよかるぞいな
さ ホカラカイト コイコイ

県内関連ワード

① [F-3] ⑨ 『ぼん踊うた (昭和5年)』 上田資料17

高山 (おきなのとなか)

きじのめんどり (はかたごじょろ、いわいめでたのわかまつさま)

竹は八幡 (福岡、田島、宰府)

妾が在所 (門司)

笹に雀 (なゝうら)

大井川 (三里浜、おいわず、石堂橋、柳町)

⑤ [F-2] ⑧ 『福間浦盆踊歌詞 高木常喜 (年代不明)』

おいちごけじょ (志賀の島、奈多浜、相ノ島、福間)

竹は八幡 (福間、田島、宮地、さい府)

高山 (おきのとなか)

私が在所 (門司)

笹に雀 (七浦)

大井川 (三里浜、お岩津、石堂橋、柳町)

きじの女鳥 (博多小女郎)

② [F-5] ⑪ 『福間浦盆踊唄台本 (昭和54年)』 上田資料18-1

高い山 (沖のと中、七浦)

お市後家女 (志賀の島、奈多浜、相の島、七浦)

大井川 (石堂橋、柳町、福間棧橋、一文字)

竹わ (宰府、緑の福間の浦、田島)

飴の名物 (筑州)

⑧ [GT1-1] 『福間浦緑町区 盆踊唄 昭和五十五年七月』

お市後家女 (沖のと中、志賀島、奈多浜、相の島)

高い山 (沖のと中)

大井川 (三里浜、おいわず、石堂橋、柳町)

雉のめんどり (博多小女郎、祝い目出度の若松様)

お市後家じょう (沖のと中)

大井川 (三里浜、おいわず、石堂橋、柳町)

⑥ [F-6] ⑫ 『緑町区 福間浦盆踊り唄 (平成3年)』

おいち後家女 (おきのとなか、志かのしま、なたはま、あいのしま)

高い山 (おきのとなか)

大井川 (三里浜、おいわず、石堂橋、柳町)

雉のめんどり (はかたごじょろ、いわいめでたのわかまつさま)

お市後家女 (沖のと中)

高い山 (三里浜、おいわず、石堂橋、柳町)

雉の女鳥 (博多小女郎、祝目出度の若松様)

⑦ [F-7] ⑬ 『福間浦盆踊り唄 緑町区 (平成4年)』

お市後家女 (沖のと中、志賀の島、奈多浜、相の島)

高い山 (沖のと中)

大井川 (三里浜、おいわず、石堂橋、柳町)

雉のめんどり (博多小女郎、祝い目出度の若松様)

県内関連ワード

③ [F-1] ⑦ 『「盆歌（大正15年）』上田資料19

大井川（石道橋、柳町）

竹わ（田島、さ以ふ、緑の福間浦）

飴の名物（ちくしゅう）

⑨ [ST4-1] 『福間浦郷土盆踊唄』

大井川（石堂橋、柳町）

竹わ（緑の福間浦、田島、宰府）

あめの名物（竹州）

⑭ [ST10-1] 『福間浦南町区 盆踊復活教習会 盆踊復活教習会』

高い山（七浦）

お市後家じょう（志賀の島、奈多の浜、相の島、七浦、博多）

竹わ（宰府、天神様、緑松、福間浦、田島）

飴の名物（筑州）

大井川（石堂橋、柳町、福間棧橋、波止のとなか、一文字、福間の玉せり）

きじの女鳥（福間玉せり、博多、祝い目出度の若松様）

⑮ [ST10-2] 『第拾四号 福間浦盆踊唄台本 昭和五十年写書』

高い山（と中、七浦）

お市後家女（志賀の島、奈多浜、七浦、博多御女郎）

大井川（石堂橋、柳町、福間棧橋）

竹わ（宰府、緑の福間の浦、田島）

飴の名物（筑州）

きじの女鳥（福間玉せり、博多御女郎、祝い目出度の若松様、福間玉せり）

④ [F-4] 『第壹拾六号 福間浦盆踊唄台本 昭和五十年写書』

高い山（沖のと中、七浦）

お市後家じょう（志賀の島、奈多浜、相の島、七浦）

大井川（石堂橋、柳町、福間棧橋）

竹わ（宰府、緑の福間の浦、田島）

飴の名物（筑州）

きじの女鳥（福間玉せり、福間の名物、福間玉せり、福間のほこり）

⑩ [ST5-1] 『第一号 福間浦盆踊唄台本 昭和五十年写書』

高い山（沖のと中、七浦）

お市後家じょう（志賀の島、奈多浜、七浦、博多御女郎）

大井川（石堂川、柳町、福間棧橋、一文字）

竹わ（宰府、緑の福間の浦、田島）

飴の名物（筑州）

きじの女鳥（福間玉せり、博多御女郎、祝い目出度の若松様）

⑯ [ST7-5] 『第参号 福間浦盆踊唄台本 昭和五十年写書』

高い山（沖のと中、七浦）

お市後家じょう（志賀の島、奈多浜、相の島、七浦、博多御女郎）

大井川（石堂、柳町、福間棧橋）

竹わ（宰府、緑の福間の浦、田島）

飴の名物（筑州）

きじの女鳥（福間玉せり、博多御女郎、祝い目出度の若松様）

⑪ [ST7-4] 『第貳拾八号 福間浦盆踊唄台本 昭和五十年写書』

高い山（沖のと中、七浦）

お市後家じょう（志賀の島、奈多浜、博多御女郎）

大井川（石堂橋、柳町、福間棧橋、一文字）

竹わ（宰府、緑の福間の浦、田島）

飴の名物（筑州）

きじの女鳥（福間玉せり、博多御女郎、祝い目出度の若松様）